

(一社)兵庫県サッカー協会 審判委員会

REFEREE CARAVAN

2025前期 活動報告

START NOW



出前型実技研修

来てもらう ⇒ “出向く”へ

研修と言えば、これまで審判委員会側が決めた日時、場所で行っていましたが、昨今の審判事情を鑑みると“待ち姿勢”ではいけないと感じています。

そこで、これまでのやり方ではなく、“攻めの姿勢”として、主催者側が行われている試合やイベント会場へと出向き、活動されている審判員、あるいは観戦されている方々を巻き込んで、実技を交え、ルールの解説ができる場を設けていく事となりました。

【実情と今後について】

審判員登録数は近年横ばい傾向ではありますが、現実として積極的に活動されている審判員数はそれほど多くありません。この状況を指を咥えて見ていては、下降線を辿るばかりです。

これからは、選手・指導者・審判が三位一体となり、お互いがリスペクト精神を持ちながら協力し合い、兵庫サッカーファミリーとして全体が成長、強化していけるよう取り組んで参ります。



準備

大会、試合、練習、イベント のリサーチをかける



オファーする



主催者間で日程調整



所要時間と実技内容を相談のもと決定



開催

└─ 可能な限り、実技研修あるいは観戦研修を推奨しています。

準備品(一例):

[受講側]会場、ボール、選手役数名、審判員(無資格者大歓迎)

[主催者側]コーン、ビブス、笛、カード、拡声器、資料



スケジュール(一例)

開始～終了まで30分を想定

※各都市協会の実情に合わせ、内容や時間配分を調整してください。

アナウンス：開会挨拶時

準備：予定時刻20分前から

集合時間：開始時刻(人数確認)

導入説明：3分

実技：各7分×3事象

まとめ：6分



メインテーマ

楽しむ・学ぶ・やってみる

メインテーマ（一例）

ファウルの見極め

内容(30min)

実技トレーニングを経て、経験値や成功体験を積み上げ、少しでも的確な判定へと繋げよう！！

（一例）

- ・ヘディングの競り合い
- ・ホールディング
- ・トリッピング





判定/指導する際の考慮点・ポイント

- 接触部位(どことどこが当たった)
- 方向(前後左右上下どこから来た)
- 距離(どの位置からどうなった)
- 強さ/深さ(力量:不用意、無謀、過剰、)
- スピード(速い、遅い)
- 競技者の意図(偶発、必然、悪意)
- ボールにプレーできたか(触れた、触れなかった)
- ボールへの優先権(どっちが近い、近かった)
- 競技者の位置関係(お互いどこにいた)
- その他

指導サイクル

- ①説明する(何をすべきかを伝える)
- ②事象を起こさせる(状況の再現)
- ③考えさせる(考慮点と判断材料)
- ④意見を聞く、引き出す(傾聴と誘導)
- ⑤正しければ褒める(賞賛/承認)
- ⑥答えを導く(課題克服案の提示)
- ⑦落とし込む(理解してもらう)
- ⑧リキャップ(再確認)



THE EVOLUTION OF REFEREEING

成功体験を 多く積み上げる

楽しさ、奥深さを感じ、知ってもらう

審判だけではなく、選手・指導者においても練習や試合を
やっていく中で、失敗から多くの事を学んでいます。

キャラバンでは、実技を交え、成功体験を多く積んでいく
事で、少しでも自信をつけてもらいたいと願っています。



審判の楽しさ、必要性 を伝え、普及活動へと 繋げる。

◆第一アクション◆

興味を持ってもらう、審判員の発掘、
ペーパーレフェリーへのアプローチ

「難しそう」ではなく…



面白そう・もっとやってみたい へ



THANK YOU

トモニ審判界を盛り上げていきましょう！



2025年度より、審判委員会の新規事業として、13都市協会を巡回しながら審判活動への支援・指導・発掘を行うべく、レフェリーキャラバンを実施する運びとなりました。

各協会の環境や実情も違うことから実践内容や活動時間、成果や課題も様々です。

次頁からは、2025年前期の活動報告を掲載していますので、是非ともご覧ください。

2025年度 レフェリーキャラバン開催報告書 (明石)



目的	審判委員会(審判指導者)が、競技会場または練習会場に出向き、実技講習または講義にてルール説明ならびに審判員発掘を行う。 従来の「来てもらう研修」ではない、“出前型研修”として13都市協会を巡回していく。		
主催都市協会	明石協会	開催日	2025年4月6日
会場	HFA明石グランド フットサルコート(西)		
報告者	メインINS： 神田 哲也		
参加対象者	四種関係者(審判員・競技者・監督・コーチ)	参加者数	18名
具体的内容			
参加者からの感想	キャラバン開講前に参加者より感想を聞き、その場で出た内容を簡潔に3点記載願います。		
・空中戦での競り合いにおいて、力のベクトル(方向)も見ておく必要がある事をこの場で知る事ができた。(4級審判員) ・普段は選手側の目線でしか見ていなかったため、判定するにあたって審判が細かく見られている事に気が付く事ができた。(指導者) ・ハンドの事象もボールを使いながら1つ1つ丁寧に教えていただいたので、より深く理解できた。(4級審判員)			
成果点	実践した中で出来た事、手応えを感じた事、嬉しかった事等、簡潔に3点記載願います。		
・大会に出場しているU-12の選手もコートに入り、「何故、審判が必要か」を伝えられた事とデモンストレーターとして支援して貰えた事で多くの方と触れ合えた。 ・審判員の参加者数が少なかったのは残念ではあるが、その分1人当たりの実技体験に関しては手厚く出来た。 ・活動時間を1時間取っていたため、3つの事象解説と質疑応答や普段の「お悩み相談」にも時間を当てる事ができた。			
課題点	実践した中で出来なかった事、失敗した事、悔しかった事等、簡潔に3点記載願います。		
・審判の参加者数が構想の半分以下となってしまった。「自由参加」が仇となった部分もある。 ・PTにおいて、口頭説明ではなく、もう少しプレーする時間を増やすべきだった。 ・想定外(人数減)が起こったとしても、Bプラン/Cプランと、別プランを準備しておくべきだった。			
対策	課題が出た中で次回実践するにあたり、すべき事、する事、したい事等、改善/対策内容を簡潔に3点記載願います。		
・訪問する大会のスケジュールやチーム構成を見極めた上で開催すべきであった。次回は試合と並行して開催するのではなく、実技研修の時間を別枠(昼休憩の試合のない時間帯)で取り、参加してもらうようにする。 ・事前告知や当日マイクで案内はしたが、「自由参加」にしてしまうとやはり参加者が少ない。強制はできないが、各チームに付き「1名の参加義務」的要素も含めるべきだったかも知れない。 ・参加規模に応じてプラン変更できるよう、いくつか別プランを準備しておく。			

レフェリーキャラバン開催報告書

(東播)



目的	審判委員会(審判指導者)が、競技会場または練習会場に出向き、実技講習または講義にてルール説明ならびに審判員発掘を行う。 従来の「来てもらう研修」ではない、“出前型研修”として13都市協会を巡回していく。		
主催都市協会	東播 協会	開催日	2025 年 6 月 15 日 (日)
会 場	カネカ高砂グランド		
報告者	サブINS: 神田 哲也		
参加対象者	一種関係者	参加者数	24 名
具体的内容			
参加者からの感想	キャラバン開講前に参加者より感想を聞き、その場で出た内容を簡潔に3点記載願います。		
・試合中にリアルタイムで起こった事象に対して、細かく解説していただき、自己判定との擦り合わせができた。 ・県審判委員会から派遣してこのような研修ができた事は東播協会としては十数年ぶりなので、勉強になったし、ありがたい。 ・1つ1つのプレーに対し、都度判定結果を述べられ「何故そうなったのか」の経緯まで語られたので、分かり易かった。			
成果点	実践した中で出来た事、手応えを感じた事、嬉しかった事等、簡潔に3点記載願います。		
・表現が悪いが、これまでやや閉鎖的だった協会の門戸が開かれ、多くのチームから参加していただいた。まずは開催できた事に木村委員長はじめ、参加者へ感謝申し上げたい。研修開催自体が大きな一歩であると考え。観戦研修前に狙いを説明する事で「今日見るべき点」を事前に伝え、頭の中を整理した上で試合に臨めた。 ・試合観戦中は基本として解説中心だったが、休憩中には個別で質問攻めにもあった。やはり、日常において色々と「疑問を抱えられて活動されている」事もリアルに感じ取れた。我々が出向いて話す事で1つでも疑問解消になれば嬉しく思う。 ・接触や判定に関わる事象が起こった際、リアルタイムで「思考・考慮事項・判定結果の白黒」を提示、解説できた事により、参加者には「そういう事かぁ」と思ってもらえるような機会となった。			
課題点	実践した中で出来なかった事、失敗した事、悔しかった事等、簡潔に3点記載願います。		
・続けて2試合観戦は長かったかも知れない。次は1試合見た後にプラクティカルトレーニングのような実践形式でやるもの面白いかも。もちろん大会やスケジュールの都合もあるが。 ・解説中心となり、それはそれで一定の理解を深める機会となったが、もう少し参加者へ質問しても良かったようにも感じた。「今のどう見えました?」「カードは必要/不必要?」「何故、オフサイドキャンセルしたのか?」と質問を投げかける場面も要所所作れば良かった。 ・当日は晴天に恵まれたが、万が一に備え、雨プログラムも裏で準備しておく必要があったかも知れない。			
対 策	課題が出た中で次回実践するにあたり、すべき事、する事、したい事等、改善/対策内容を簡潔に3点記載願います。		
・開催協会によって、参加者数、年齢層、スキル、熱量が違うため、やって初めて分かる事もある。その中でチーム数も多い東播協会関係者の熱量を約半日ではあったが、沢山感じた。この研修を足掛かりに審判研修を毎年開催できれば、と思っている。せっかく出来た「流れを止めない」事こそ、今後の課題である。 ・サブINS(神田)の活動が乏しかった。起きた事象に対し、メインINSと連携を取りながらタイミングを見計らいサブが参加者に質問をするべきだった。「メインINSとの見解違いがあってはいけない」「出しゃばり過ぎてはいけない」と消極的になってしまった。沈黙が長かった時間帯もあり、その辺りサブがフォローすべきだった。 ・これまで我々が通常ベースとして開催している研修会は、“自主的に参加される方”がほとんどである。このキャラバン活動は本当の草の根活動であり、通常とは若干路線が違いため「これならまた来てみたい」「面白かった」「興味が湧いた」というお土産を参加者に渡したいので、内容にどう柔軟性を持たせるかも課題の1つである。			

お疲れ様でした。ありがとうございました。

レフェリーキャラバン開催報告書

(尼崎)



目的	審判委員会(審判指導者)が、競技会場または練習会場に出向き、実技講習または講義にてルール説明ならびに審判員発掘を行う。 従来の「来てもらう研修」ではない、“出前型研修”として13都市協会を巡回していく。		
主催都市協会	尼崎協会	開催日	2025年7月6日(日)
会場	尼崎バイコム競技場		
報告者	サブINS： 神田哲也		
参加者	三種関係者（4級審判員、指導者、顧問） +尼崎協会花峯会長+北摂協会関係者（傍聴）	参加者数	24名
具体的内容			
参加者からの感想	キャラバン開講前に参加者より感想を聞き、その場で出た内容を簡潔に3点記載願います。		
- またこのような研修会を設定していただければ、参加したい。 - 自分が見えていた事象と映像で見た事象の違いに驚いた。INSから1つ1つ丁寧に解説いただいたので、判定する際の考慮事項やポジショニング、懲戒罰の必要性を改めて考えさせられる良い機会となった。（主審担当） - たった今終わったばかりの試合を関係者全員で映像で振り返る事自体、初めての経験で新鮮だった。限られた時間の中で他者の考えなどを聞き、意見交換出来たのも大変有意義だった。またノーファウル/ファウル/イエロー/レッドの基準も配付資料を見ながら説明を受けた事で、より理解が深まった。 			
成果点	実践した中で出来た事、手応えを感じた事、嬉しかった事等、簡潔に3点記載願います。		
- リアルタイム実況解説において「事実確認と何故そうすべきなのか」を参加者と一緒に考え、その場で結論付ける事（判定の白黒）ができたので、概ね好評であった。 - 観戦後にビデオ撮影した映像をすぐに見せる事が出来た。また地元協会の田原INSから審判団へ適切な指導が行なわれ、ホーム感が出せた事も1つの成果であるとする。 - 柴田委員長の発案により、解散前に参加者アンケートが行われた。調査結果として“審判活動や3級に関心がある”に2名が〇を付けられており、本活動が審判員発掘の足掛かりの1つとなったのであれば、嬉しく思う。 			
課題点	実践した中で出来なかった事、失敗した事、悔しかった事等、簡潔に3点記載願います。		
- 予定していたスケジュールと開始時刻、内容が若干異なり、少し慌てたスタートとなってしまった。できれば審判団の打合せを見たかったが、気温/大会そのものの時間遅延、割当審判員の繁忙度を考慮するとその部分での調整は難しそうであった。ただ、その後に運営側が観戦する場所やタイムスケジュールも速やかに全員へ周知した事で混乱はなかった。臨機応変な対応は素晴らしかった。 - 今回訪問させていただいた環境として、大会運営も兼ねた審判員、参加者であったため、全試合が終われば表彰式や片付けの残務があった。その合間を縫って振り返りを行ったが、活発な意見交換がなされていた故に結果論+欲を言えば、<u>もっと時間が欲しかった</u>。それほど盛り上がった内容だった。これは嬉しい悲鳴。 - この盛り上がりや熱量を単発で終わらせる事なく、次いつ研修を行うかを考えたい。鉄は熱いうちに打ちたいところ。 			
対策	課題が出た中で次回実践するにあたり、すべき事、する事、したい事等、改善/対策内容を簡潔に3点記載願います。		
- こちらがお願い、訪問させていただいている関係上、難しいと思うが、スケジュールに余裕を持たせる事も考慮していただきたい。 - 今後、部活動も教員主導ではなく、外部指導者への委託、あるいはクラブ化（または選手の移籍）が加速すると思われるため、今の内にしっかり三種の先生方との絆を深め良い関係性を築いておいてもらいたい。 ※尼崎協会に限らず、これは県下共通 - とても良い研修となった印象が強い。大きな課題はないが、可能であれば実技トレーニングの実施もゆくゆくは取り組んでいただきたい。映像分析だけであれば盛り上がっていたので、三種のTMなどを利用していただき、半日程度の実技研修をしてみたいだろうか。 			

お疲れ様でした。ありがとうございました。